

35. 熊本大学生命資源研究・支援センター改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
研究	(法人評価までに改善する計画) 疾患モデル分野、病態遺伝分野に続いて、表現型解析分野にも新たな専任教員を配置し、研究業績のアップに努める。	平成27年9月1日付けで教授を採用、H28年1月1日付けで助教を採用予定であり、この2名を表現型解析分野に配置することにより、計画を達成した。	達成済み
	(2年間で改善する計画) 本センターの研究水準を上げるため、本センターの教員が筆頭著者あるいはCorresponding authorであるSクラスの論文の作成を目指して研究を進める。	筆頭著者竹尾でCorresponding author中渦であるPLoS One, 10, e0128330 (2015)は、学術的意義と社会・経済・文化的意義の両方において、クラスSに値することにより、計画を達成した。	達成済み
	(次の組織評価までに改善する計画) 本センターの研究水準を上げるため、本センターの教員が筆頭著者あるいはCorresponding authorであるSSクラスの論文の作成を目指して研究を進める。	教授を筆頭に研究を進めている他、H27.9月に教授を1名採用、H28年1月1日付けで助教を採用予定であり、この2名を配置することにより、新たな論文の発表増が期待される。	引き続き、教授を筆頭に研究を進めており、新たな論文の発表増が期待される。
社会貢献	(法人評価までに改善する計画) センタートップページからリンクを張っている各施設・分野のページも中には、記載内容が古いページも存在するので、広報委員会を中心に内容の更新を進める。	技術開発分野及び病態遺伝分野のホームページをリニューアルし、その他のページについても記載内容を更新したことにより、計画を達成した。	達成済み
	(2年間で改善する計画) 広報委員会を中心に、英語版ホームページに関して内容の更新作業を進める。	現在広報委員会で検討中である。	引き続き広報委員会で検討中である。
	(次の組織評価までに改善する計画) センターホームページの全体的なリニューアルを行う。	現在広報委員会で検討中である。	熊本マウスクリニック (KMC) に関するホームページをリニューアルし、利用者の利便性を大幅にアップした。また、RIC/GTC棟に設置してあるセミナー室及び講義室の予約管理システムを新設することにより、計画を達成した。
国際化	(法人評価までに改善する計画) 当センターで作出されたマウスラインがすでに国際的に利用されていることをアピールするために、EGTCデータベースのTopicsで公開している内容を、センターホームページにも掲載する。	センターホームページのトップページにEGTC Topicsページへのリンクボタンを掲載し、直接観れるようにしたことにより、計画を達成した。	センターホームページのトップページにEGTC Topicsページへのリンクボタンを掲載し、直接観れるようにしたことにより、計画を達成した。
	(2年間で改善する計画) 生殖技術を生かしたマウスラインがすでに国際的に利用されていることをアピールするために、CARD R-BASEを利用して得られた業績を紹介するコーナーを、センターホームページの中に新設する。	現在広報委員会で検討中である。	引き続き広報委員会で検討中である。
	(次の組織評価までに改善する計画) EGTCおよびCARD R-BASEが国際的に利用されていることをアピールするために、得られた業績が直感的に分かるようなグラフや表をセンターホームページのトップページに掲載する。	現在広報委員会で検討中である。	引き続き広報委員会で検討中である。
その他 (教育研究支援)	(法人評価までに改善する計画) 疾患モデル分野、病態遺伝分野に続いて、表現型解析分野にも新たな専任教員を配置し、研究指導を行う学生および大学院生の確保に努める。	平成27年9月1日付けで、表現型解析分野に教授を採用し、大学院薬学教育部の担当を発令した。また、H28.1.1日付けで、同分野に助教を採用の予定である。当該発令は新規のもので、今後学生の確保増となることにより計画を達成した。	表現型解析分野に平成27年9月1日付けで教授、H28.1.1日付けで助教を採用し、大学院薬学教育部の担当を発令した。本年度より学部の授業を担当しており、前勤務地から2名の大学院生を受け入れ、引き続き研究指導を行っていることにより計画を達成した。
	(2年間で改善する計画) センター全体では、H21～H25の年平均学部生19名、大学院生9名だったので、年平均学部生25名以上、大学院生10名以上の確保に努める。	センター全体でH26の学部生33人、大学院生10人、H27の学部生33人、大学院生12人であり、目標をクリアしている。	センター全体でH26の学部生33人、大学院生10人、H27の学部生33人、大学院生12人、H28の学部生21人、大学院生11人である。従って、年平均で学部学生29.0人、大学院生11.0人であり、目標をクリアしている。
	(次の組織評価までに改善する計画) 全分野において学部生または大学院生の指導を行い、センター全体では年平均学部生30名以上、大学院生12名以上の確保に努める。	センター全体でH26の学部生33人、大学院生10人だったが、H27は学部生33人、大学院生12人であり、目標をクリアしている。	センター全体でH26の学部生33人、大学院生10人、H27の学部生33人、大学院生12人、H28の学部生21人、大学院生11人である。従って、年平均で学部学生29.0人、大学院生11.0人であり、目標をわずかに下回っているが、今後は表現型解析分野への配属学生が増えていくと予想される。
その他 (男女共同参画)	(法人評価までに改善する計画) 男女共同参画推進事業及び育児・介護支援制度の周知を図るため、意識アンケート調査を実施する。	熊本大学男女共同参画推進基本計画を周知し、平成24年度熊本大学男女共同参画意識調査の様式で、再度アンケート調査を実施し、今後の事業展開に向けた男女共同参画事業に対する認識度、育児、介護支援に対する要望等の現状把握により、計画を達成した。	達成済み
	(2年間で改善する計画) センター独自の男女共同参画事業について見直しを行い、ワークライフバランスの実現に向けて、本学育児・介護支援制度の周知と利用を推進する。	現在、男女共同参画推進ワーキンググループで検討中である。	引き続き、男女共同参画推進ワーキンググループで検討中である。
	(次の組織評価までに改善する計画) 生命資源研究・支援センターにおける男女共同参画推進を目的として設置された男女共同参画推進ワーキンググループの活動を活性化させ、センター全教職員の意識改善に努める。	現在、男女共同参画推進ワーキンググループで検討中である。	引き続き、男女共同参画推進ワーキンググループで検討中である。